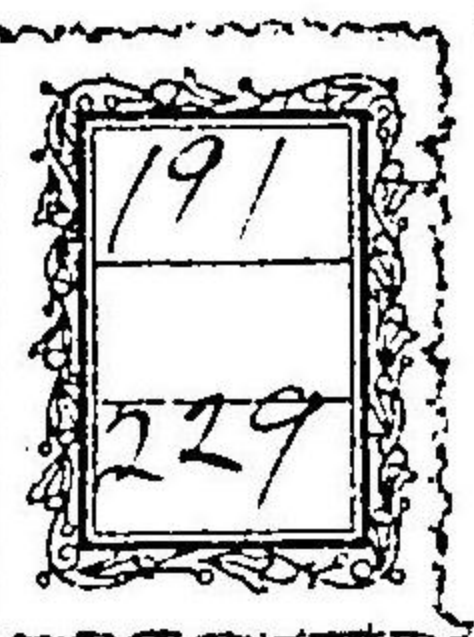


J-48



(非賣品)

寫真術全法說明

大阪西區立賣堀北通一丁目百五十九番屋敷

和田顯光堂

近來素人間ニ寫真術ヲ試ムルノ大ニ流行
 二付經便寫真器其他速成傳授等種々雜多ノ
 新聞紙上ニ顯ル斯術ヲ試ミントスルノ人ハ屬
 術ハ單ニ器械ト使用藥品トヲ備フレバ容易ク爲
 之得ラ者ト誤認シ貴重ノ金錢ヲ投シ是等廣
 告的ノ器械ヲ購ヒ傳授ヲ受ケ一朝寫真術ヲ試ムル
 者意入如クナラズ遂ニ器械藥品ヲ放置スルノ人
 ナキニシテ非抑々寫真術ハ非常ノ熟練ヲ要シ
 其使用スル器械等ニ至ルモ廣告的ノ翫弄物ニ等
 シキ物ヲ以テ完全ナル寫真畫ヲ造ラントスルハ
 大ニ不可ナリ又寫真實業者ノ常ニ用フル所ノ器
 械ヲ求ムルニハ巨額ヲ投セザレバ購ヒ得難シ是
 等諸君ノ便利ヲ謀ラシムルヲ慮カリ非常ノ熱心ト
 勉強ニ依リ此度和田顯光堂ノ製作ニ罹ル器械ハ



其價格廉ナルニ不抱實業者素人ノ別ナク使用シ
得ラル、良器ニシテ予ハ此器械ヲ以テ撮影ヲ試
ミルニ船來品ニ勝ルトモ決シテ劣ルヲナキハ予
ノ保証スル所ナリ例ノ廣告的ト同日ノ論ニアラ
ズ然ルニ器械ノ完全スルモ其使用法ヲ記臆セザ
レバ猫ニ小判ノ諺ニシテ其用ヲ爲サズ技術ト器
械トハ車輪ノ如クニシテ其一方ヲ欠ケハ効ノナ
キヲハ諸君ノ知ラル、所ナリ這般顯光堂ノ主人
ヨリ器械使用法及寫眞全法ノ説明ヲ不肖予ニ托
セラレ鏡面皮ヲ不顧下ニ掲クルトナセリ予ハ
實業寫眞師ニシテ理學化學ヲ應用セシ者ナラス
單ニ數年ノ實檢上ヨリ出シ者耳ヲ以テ書ス又其
文意迪モ例ノ廣告的ノ如ク飾文及累ナク甚拙ナ
キ者ニシテ讀者ハ判鮮ニ苦マル、オラシクナ信

スモ記者ノ意ノアル所ヲ以テ再三再四復讀推測
アラシクテ望ム
付言予ノ説述スル若シ不審ニシテ意ノ如クナ
ラザルハ其質問ニ應ズベシ

寫眞師 杜川萬二謹述

寫眞術ヲ試ムント爲サバ左ニ例記スル器械并ニ藥品ノ用意アルベシ

第一着

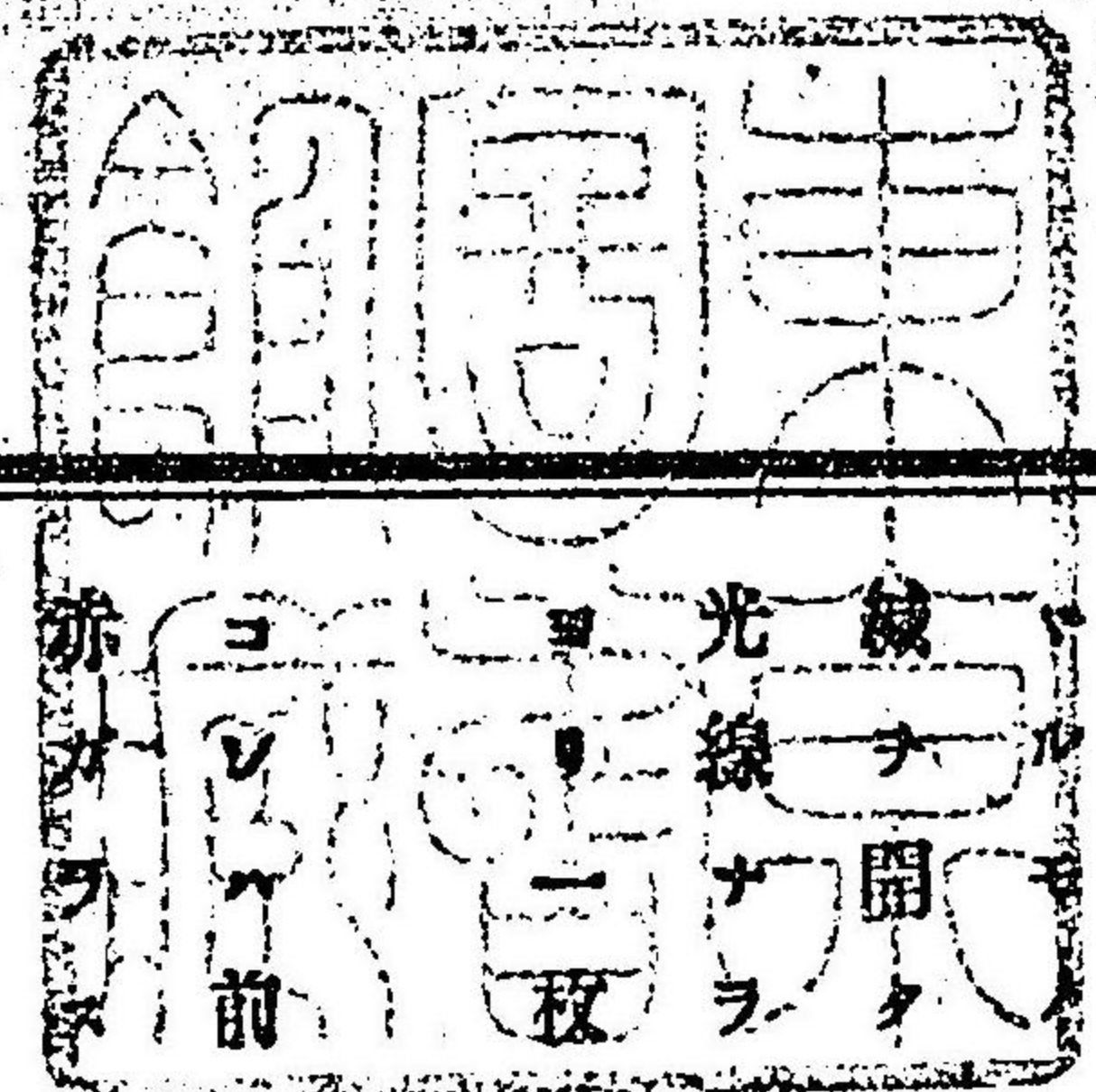
- 鏡玉
- 暗室
- 顯象皿
- ガラス掛臺
- 乾板
- アリスト紙
- 強アンモニヤ
- 硫青酸アンモコヤ
- 炭酸加里
- 硫酸鎂
- 合セコロシチン
- 醋酸
- 白色フルニクス
- 硝函
- 覆巾
- 燐棒
- 臺紙
- 昇求
- 次亞硫酸曹達
- 臭素加里
- ハヒドロキノン
- 硝酸銀
- 硝酸銀
- アルコール
- 黑色フルニス
- 三肺
- 赤ガラスランプ
- メートガラス
- パピール
- 沒食酸
- 鹽化金
- 亞硫酸曹達
- 蓆酸加里
- 硫酸鎂
- 靑酸加里

乾板取扱ノ事

乾板ハ未ダ寫サハル種板ニシテ日光及電燈其他ランプノ光リ等ニ少シニテモ觸ル、時ハ廢物トナリテ其用ヲ爲サハルモノナレバ常ニ取扱フニ極メテ叮嚀ニ清潔ニ爲シ其線ヲ開クニハ必ず暗室内ニ於テ赤ガラスニ枚ヲ經テ來ル光線ヲラデハ爲スベカラズ尤モ夜中ナレバ三分心ヲソテ一枚ノ赤ガラスヲ通シテ來ル光線ニテ障害ナシ

取棒へ乾板ヲ入ル、事

コソハ前ニ述フル如ク暗室内カ又ハ夜中ヲシテ許ニテ赤ガラスヲ經テ來ル光線ニ依テ箱ヨリ一枚宛取出シ取棒ハ納ムベシ成ベク清淨ナル手ヲ以テ扱ハザレバ若シ藥面ニ指先キ等ノ觸ル、時ハ斑点ノ疵ヲ生スルノ恐アレバナリ其取棒ニ納メ終レバ直ニ蓋ヲ爲シ平置ニ爲サズ都テ立



ニ置ベシ

「ピント」ヲ合ス事

其寫サントスル物体ニ器械ヲ向ハシテ寫眞師ノ頭上ト器械ノ上部へ黒キふるしき様ノ巾ヲ冠リ都テ背面ヨリ來ル光線ヲ避ケ而シテ目鏡ノ蓋ヲ取去リ暗函後部ノピントガヲスチ眯ムル時ハ其物体ノさかさまじナリテ映寫スベシ然レドモ判明爲サハルキハ目鏡ニ付スル回轉器ヲ以テスルカ又ハ暗函ノ後部ヲ進退爲サバ其一カ所ハ鮮明ニ映寫スルノ焦点ヲ見出スベシ其時直ニ器械ニ付スルねぢヲ以テ其位置ノ變ヲサル様固ク止ムベシ

寫スベキ物体ノ位置ヲ看究ムル事

「ピント」ガラスニ其物体ノ映寫シタルキハ自ラ望ム所ノ位置ヲ造ルベシ尤モ「ピント」ガラスニ墨線ヲ以テ區畫ヲ設ケ

置キ此區畫内へ体才ヨク位置ヲ定ムルナリ以上ノ手續ニ

ヨツテ位置看究ハ終ヘリ

コレヨリ取梓ヲ暗函ニ取付ケルノ手續ヲ述フベシ「ピント」ガラスヲ取除ケ其跡へ取梓ヲ納メ目鏡ノ蓋ヲ施シ「クラ

マ」ヲ刺込ニ取梓ノ引蓋ヲ靜カニ引抜クヘシ此時誤テ目鏡

ノ蓋ヲ取落ス等ノ事アルトキハ直接ニ其物体ノ影ハ乾板

ニ受クルカ故へ寫度ヲ與フルマデハ充分ノ保護ヲ爲サハ

ルヘカヲズ此手續ヲ爲ス中タヘズ暗函ノ上部ヨリ取梓等

ニ黒巾ヲ以テ覆ヒ隙間等ヨリ暗函内ニ光線ノ挿入セサル

様注意スベシ

「クラミ」ノ事

クラミハ寫眞術中最モ必用ノ具ニシテ「クラミ」使用上ヨリ著シキ寫眞成畫ノ良不良ヲ釀生スベシ其何物ヲ寫スニモ

常ニ小サキ孔ノ者ヲ使用スルガ得策ナルヘシ然レドモ「ク
 ラミ」小孔ノ者ヲ用フレバ寫度遅シコレニ反シ大孔ノ者ヲ
 用フレハ寫度速カナレドモ其出來上リタル種板ハ薄クシ
 テ甚不愉快ナル寫眞畫ヲ造ルヘシ都テ小孔ノクラミヲ用
 ヒ少シク寫度ヲ長ク與ヘテ造ラレタル種板ハ畫紋致密ニ
 シテ尙濃厚ナレバ紙寫眞ト爲シタル后モ尙愉快ナル成畫
 トナルヘシ然レドモ最初「ピント」ヲ合ス時ハ小孔ノ「クラミ」
 ニテハ「ピント」ガラスニ映寫スル薄暗クシテ焦点ヲ見ルニ
 困難ナレバ初メ「ピント」ヲ合ス時ハ無ク「クラミ」ニテスルカ又
 ハ一番大孔ノクラミヲ使用シ而シテ后ニ小孔ノ「クラミ」ト
 取換フルガ便利ナリ

寫度ヲ與フル事

以上述べタル「ピント」及ビ位置ノ見究メ其他取替ノハメ込

ニ引蓋ヲ引抜キ目鏡ニ蓋ヲ施スノ手順ヲ終ヘタランニハ
 其寫スベキ實物ニ異動ナキヤ目鏡ト被寫体ノ中間ニ障害
 物ナキヤヲ檢シ異状ナキニ於テハ右手ヲ以テ目鏡ノ蓋ヲ
 靜カニ取去ルヘシ其時間ハ晝間十二時前后ノ時一番小孔
 ノ「クラミ」ヲ用ヒ四秒時斗リコテダレリコレニ準シ「クラミ」
 孔ノ大ナル程寫度ヲ減ズルコトヲ記憶スベシ其鏡玉ノ性質
 四季ノ時候乾板ノ良不良ニ依テ差アレドモ今述べシハ十
 月頃ノ割合ナリ
 「シヤツター」ヲ以テ寫ス事ノ大ニ行ハレ此「シヤツター」ハ非
 常ノ早度ニシテ一秒時ノ何分ト云フ此「シヤツター」ヲ用フ
 ル時ハナルベク大孔ノ「クラミ」ヲ刺入シ最モ明ルキ寫所ア
 ラザレバ効ナキナリ
 當今「シヤツター」取リノ至極速寫度ノ乾板ヲ販賣セリコレ

チ用フレバ瀛車瀛船其他ノ動物ヲ瞬間ニ撮影スルヲ自由
ナレドモ普通乾板ニテハ鮮明ニ撮影スルヲハ及バザルモ
ノナレバ鏡玉ノ長ロシキ物ニテ最モ明シキ所ナレバ撮影
ノ出來得ルヲアリ

顯象ノ事

以上ノ手續キヨツテ寫シタル乾板ハ暗室内又ハ夜中ラソ
ブノ許ニテ取梓ヨリ出ダシ見ルモ最初取梓へ納メタル片
ト少シモ異ナルヲナシ矢張白茶色ノ謨アルガラスナリヨ
レニ顯象液ノ還元藥ヲ注ギ始メテ光線ニ觸レタル部分ノ
多少ニ隨ヒ變化ヲ催スモソト知ルヘシ
先ツ顯象スルニハ平皿「バツト」ノ中へ寫シタル乾板ノ藥面
ヲ上向ケニ爲シ靜カニ納メ顯象液ノ還元液ヲ一様ニ行渡
ル様ニ注ギ掛ケ上下左右ト其「バツト」ヲ振動爲ストキハ除

々ト畫紋ヲ顯スヘシ景色ナレバ空雲ノ部ヨリ人物ナレバ
其鼻ノ先ヨリ漸々顔一面ニ顯ハル、モノナリ都テ白色ナ
ル部分ノ光線ニ感スル速カナレバ黑色ノ部分則チ景色ナ
レバ樹木人物ナレバ頭髮アゴノ下ハ顯象最終マデ其變化
ヲ起サズ依然最初ノ乾板ノ通り存ズルモノナリ然レドモ
強キ顯象藥ヲ注グカ又ハ乾板ニ少シノ光線ニフレタル片
ハ一面ニ其變化スルヲ見出スヘシ故ヘニナルマク頭髮ノ
部分或ハ樹木等ニ依然變化ヲ起サズ白茶色ノ存ズルヲ最
モ長トス白色ノ部分則空雲又ハ顔ノ部分ハ十分ノ變化ヲ
起シ顯象十分ニシテ黑色トナルマデ變化ヲ與フヘシ
若シ「クラミ」孔ノ大ナル者ヲ使用スルカ或ハ寫度ヲ長クス
ルカ此兩者ニ於ケル黑色ノ部分則樹木或ハ頭髮ニモ變化
ヲ促ス「アレン」バ寫度ヲ與フルニハ最モ注意ヲ爲サ、ルベ

此寫度ヲ與フル事及ヒ顯象スルコトハ最初一二枚ハ仕損ズ
 ル事アルモ四五度撮影顯象ニ就キ前章ニ述ブル所ノ「シラ
 ミ」其他ヲ記憶爲シ行フルハ容易ク瞭解スヘシ
 顯象ノ加減ハ黒色ノ部則チ樹木或ハ頭髮ノ最モ黒キ部ニ
 少シク變化ヲ來サントスル時ニ至ツテ止メ其乾板ニ十分
 水ヲ注ギ顯象藥ノ作用ヲ止メ次亞硫酸曹達ノ液中ニ投ズ
 暫時ニシテ取出シテ乾板ノ背面ノ黒色ニ變スルルハ定着
 濟ト心得ベシ若シ背面未ダ白色ノ存スル中ハ乾板ニ含ム
 所ノ感光藥ノ脱セザレバ再ヒ次亞硫酸曹達ノ液中ニ浸ス
 ヘシ十分感光藥ヲ脱セシムベシ此手續キノ終ラザル中ハ
 決シテ前章ニ掲グル所ノ光線ノ外ハ觸レシムベカラズ最
 早定着ノ爲メ感光藥氣ノ脱シ黒色ト變シタルハ兩三度清

水ヲ注流シテヨク々々洗滌爲シ尙一時間余清水中ニ浸ス
 ベシコレハ種板ニ付着スル所ノ次亞硫酸曹達ノ氣ヲ退ガ
 シタル爲メナレバ時々新水ト取換フルヲ長トス此手續キ
 モ濟タルバ種板ヲガラス掛臺ニ依テ清淨ナル風スギ宜シ
 キ所ニテホコリノ付着セザル様ニ乾カスヘシ決シテ火力
 ナ用ヒテ乾カス事アルヘカラズ
 最モ以上ノ手續ヲ經テ茲ニ種板ノ出來タルモノト知ルヘ
 シ之レヨリ此種板ヲ以テ印畫ヲ製スルノ手順ヲ記スヘシ
 最初ハアリスト紙ニ印畫ヲ爲スハ初學者素人ニハ便利ナ
 ランコトヲ信ズ何トナレバ普通鷄卵紙(バヒール)印畫ハ其紙
 面ニ感光力ヲ起ス藥則硝酸銀ヲ塗ルノ手順ハ固ヨリ手ヲ
 汚シ其他多少器具ヲ用意爲シ暗室中ノ仕事ノ多クレバ十
 ヲヨシニ反シアリスト紙ハ紙面ニ感光力ヲ與フルノ煩ナ

キ耳ナラズ印畫ノ后數日ヲ經ルモ變色ヲ患ナキハ勿論其
 印畫セザル紙モ數日貯藏スルコトヲ得ルバビ一此ハ其使用
 ノ目前ニ感光藥ヲ塗リ印畫則燒付ヲ爲スルハ直ニ色上ケ
 ヲ(鍍金ノコ)手續キテ經ザレハ其紙面ニ變化ヲ起ス患アリ
 ナリス下ハコレ等ノ急速ヲ要セズ又光澤付器械ノ必用ナ
 ク極メテ便利ナル点多シ

アリスト紙印畫法

アリスト紙ハ日光ニ觸ルル時ハ黑赤色ニ變化スルモノナ
 シ非常ニ光線ニ觸レザル様罐中ニ貯ル其使用スルニ當リ
 ナルベク光線ノ弱キ室内ニテ望遠所ノ形ニ切り其滑カナ
 ル方ヲ種板ノ藥面ニ密着セシメ燒梓ニ納メ燒付ケテ爲ス
 其手續大凡左ノ如シ
 燒梓ニ(販賣店ニアリ)種板ヲ入レ其上ニ
 アリスト紙ト倚

其上ハ數枚ノ新聞紙ヲ切レ又ハ其他余リ厚カタザル紙ヲ
 以テ押ヘテアリスト紙ト種板トノ密着公平ニ爲シ尙其上ヨ
 リ押シ蓋ナルニ枚ノ木片ヲ蝶番ヒニテ連結シタル物ヲ以
 テ押ヘ彈金具ノ設ケアレバ押蓋ナル板ノ中央ヲ此彈力金
 具ノ作用ニキツテ壓シ益々種板トアリスト紙トノ密着ヲ
 保護スベシ(實物ヲ一見爲サバ其使用法ヲ知ルハ容易ナリ
 ベシ)最初種板ニアリスト紙ヲ密着セタル際其中間ニ液
 体等ノ存在セザル様檢スベシ若シ等因ニシテ他物ノ狹
 マレアルルキハ其狹マレタル物ノ形ヲスリテ紙面ニ止メ
 見苦シキ成畫ヲ造ルベシ又アリスト紙ニ種板ト密着ホテ
 其隙其隙ニ鮮明ナル畫紋ヲ造ルコトヲ得ズ以上ノ
 手續至極注意爲スベシ此壯事ヲ爲シ終シハ燒梓ハ強キ光
 線アル所ニカラス面ヲ上ト爲シ放置暫時ニシテ其紙面

ニハ種板ニアル所ノ畫紋ヲ顯スベシ其焼付ノ如何ヲ檢ス
 ルニハ燒梓ノ裏面ニアル連結シタル一枚ノ板ヲ靜ニ除キ
 檢ス尙其一方ノアルスト紙ノ種板ニ付スル点ノ異動ヲ起
 ササル様ニ爲スベシ未檢セザル一方ヲ見ルニモ最初取除
 キタル板ヲ元ノ如クニ爲シ置而シテ其一方ヲ檢スベシ
 種板ノ下ニアルアルスト紙ハ光線ノ爲メニ其種板ノ透明
 ナル部分ハ變化ヲ起シ不透明ナルケ所ハ覆ハレテ變化ヲ
 來サズ然レドモ余リ長時間日光ニ觸レル時ハ一面ニ變化
 ヲ起スベシ故ニ前ニ述べタル燒加減ヲ檢スルノ必用アリ
 燒付ノ程度ハ普通寫眞ノ成畫ヲ見ルヨリ少シク濃厚ニ燒
 付クベシ後ニ鍍金ノ時退色スレハナク
 燒付ノ程度意ノ如クナレば燒梓ヨリ取出シ光線ノ挿入セ
 ザル函中ニ入レ置キ色上ケ(鍍金)ノ際取出スベシ夫レマデ

ハ決シテ光線アル所ニ見ルベカラズ

アルスト紙水洗并ニ色上ケ

(鍍金)ヨリ全法ノ事

木製又ハ陶器製ノ器ニ清水ヲ汲ミ其水中ニアルスト紙ヲ
 投入スレバアルスト面ニ含ム銀ノ鹽酸銀ト變シテ水中ニ
 白キ濁リヲ生ズ然ルトキハ何度モ清水ニ取換ヘ濁リノ生
 ゼザルマデ水ヲ取換ヘ而シテ后ナ色上ケ液(鍍金液ノ事)ニ
 浸スベシ然ルトキハ除々ト赤色トナリ又黒色ト變ス此色
 ノ識別ハ自ラ望ム所ノ程度ニ至ツテアルスト紙ヲ液中ヨ
 リ取出シ新シキ清水中ニ投シ鍍金液ノ氣ヲ退ガシメ而シ
 テ定着液ノ器中ニ投ズ斯ク爲ス片ハ黒キ美シキ色モ赤色
 ト變ズレトモ決シテ驚クニ足ラズ暫時ニシテ元ノ色ニ復
 スヘシ若シ此定着液中ニ復セザルコアルモ仕上ケ后ハ必

ズ長キ色トナルヲ相違ナシ定着液ニ浸ス后ハ液ノ四方ニ
 行渡ル様其器ヲ動カシ十五分間ヨリ四十分時間マデ浸ス
 ベシ併シ器ノ振動ハ最初五分間斗リニテタレリ
 都テ印畫ノ諸手續ハナルベク光線ノ微弱ナル場所ニテ爲
 サレハ變化ヲ來シ仕上ケ后不愉快ノ寫眞畫ヲ造ルベシ
 此定着液ニ投テ始メテ感光ノ作用ヲ止メタルモノト知
 ルベシ
 此アリスト紙ハ紙質極メテ微弱ナル上表面ハ又和ラナル
 膠ノ膜ヲ塗リ製シタルモノナレバ爪其他ノ物ニ觸ル、時
 ハ疵ヲ生ズルヲ以テ常ニ其心シテ取扱フヲ要ス
 定着液ニ投シテヨリ前章ニ記スル時間ヲ經過シタル片ハ
 感光作用アル銀分ハ定着液中ニ呼出サレ紙中ニハ少シモ
 止ラズコレニ反シ定着液ノ紙中ニ含ミタレバ又此ノ定着

液ノ氣ヲ退カシメザレハ變色ノ患ヲ免カレズ此定着液ノ
 氣ヲ去ルニハ右アリスト寫眞畫ヲ定着液ヨリ取出シ清水
 ニテ十分洗フベシ其洗方ハ桶類ニ清水ヲ汲ミ何度モ新水
 ヲ取換ヘタル后ヲ尙清水ニ廿分斗リ浸シ然ル后ヲ更ニ水
 ヲ取換ヘ廿分斗リ浸スベシ

光澤付法

清々ナルガラヌ板ヲアルコイルニテ十分磨キ尙空磨キテ
 爲シ(白キ木綿切又ハ金巾)最モ透明ニ爲シコレニ白蠟ヲス
 リ付ケ炭火ヲ以テ暖テ與ヘル片ハガラス面ニアル蠟ハ溶
 解シテ流動体トナル此時清淨ナル日本紙ヲ以テ其流動ス
 ル蠟ヲ拭ヒ尙十分ニ拭ヒガラス面ニ蠟氣ノ存スルヤ否ヤ
 識別シ難キマデニ爲シコレヲ水中持入り此蠟ノ布キタル
 方ト以前ノアリスト畫ノ表面トシ密着セシメ其中間ニ空

二〇
氣ノ存セザル機最モ注意シテ引上ゲ風スキノ長キ所ニ立掛ケテ乾スベシ決シテ火力ヲ用ユベヲオナルベクハ此仕事ハ夕方ニ爲シテ而シテ翌朝コレヲ見ル所ハ十分ニ乾キタルモノナレバ其一隅ヲ小刀ヲ以テ離シ其所ヲ兩指ヲ以テメカサシハ容易ク離ル、モノナリ若シ未ダ水氣ノ悉皆去ラザル中ハ容易ク離ル、モノニアラズ必ス疵ヲ生ズルノ恐アレバ乾カスニ當リヨク々ニ注意シ干キタルヤ否ヤヲ檢シ而シテ后チメクルベシ意ノ如クメクレタル片ハ其四方ヲ利刃ヲ以テ斷チ裏面ノ周圍ニ指先ニテ最モ強キ糊ヲ施シ臺紙ニ貼付スヘシ尤モ此貼方ハ浮貼ニシテ周圍糊ヲ施スケ所モナルヘク町噺ニ糊ヲ付ケザレバ表面ニ濕氣ノ回リテ光澤ヲ失スル患アリ又表面ニハ少シモ糊ノ付着セザル機最モ注意スベキナリ

原板撮影法及アリスト紙使用法ハ以上述べタル如ニシテ續者ハ記憶スルナランコレヨリ乾板ノ顯象ニ用フル藥品ノ調合分量及定着液ノ造リ方アリスト紙ノ色上ゲ藥製法定着液ノ合方ヲ記スヘシ

乾板顯象液 (沒食酸)法

- 一 水 百 目
- 一 臭素加里 三 匁
- 一 強アンモニヤ 二 匁
- 一 若三品チーツノ瓶中ニ合ス

其寫シタル乾板ヲ現象スルニ當リ此液二匁(十五匁)ヲ「メイトガラス」ニ入レ其中ニ焦性沒食酸ヲ煙草吸ガマ七八ツノ割合ニ投メレバ直ニ溶解スレバ之レヲ覆板面ニ注シヘシ

(注意) 顯象スルニ當リ液ヲ注グヤ直ニ畫紋ノ現レ方ヲ始ムルハ寫度ノ過ギタルカ又ハ顯象液ノ強キカニヨリ起ル若シ寫度ノ過ギタルト思フ時ハ少シク水ヲ加ヘ顯象液ヲ薄クスヘシ

右藥品中ノ効用ヲ述ズルニ沒食酸ハ乾板ノ光線ニ感シタル部分ニ變化ヲ促ス力ヲアリト雖モ微弱ナルガ故強アンモニヤヲ用フ強アンモニヤハ著シク變化ヲ起ス作用アレ非此アンモニヤ耳ヲ用フレハ原板ヲ薄クシテ印畫ニ適セズ又沒食酸而已ニテハ甚速カナラザル上愉快ナル種板ヲ造リ難シ臭素加里ハ透明ノ部ヲ鮮明ナラシメ且強アンモニヤノ爲メ著シク變化ヲ促スヲ制止スルノ働キアルモノナリ依之若シ顯象液ノ強キニ過タル時ハ臭素加里ノ量ヲ増ス又弱キ非ハアシモニヤノ量ヲ増スヲ常ニ記憶爲サ

ハ顯象ヨリ起ル失策少ナシ

○乾板顯象法 (ハヒドロキノソ法)

- 一 水 百 目
- 一 ハヒドロキノソ 壹 匁
- 一 亞硫酸曹達 七匁五分
- 一 炭酸加里 十五匁

右四品ヲ一瓶中ニ溶解シテ一液トス此一液ヲ以テ現象スヘシ此液ヲ以テ顯象ヲナス片ハ少シク時間ヲ費ヤセドモ其出來上ノ種板ハ愉快ナルモノヲ造ルヘシ此液ヲ造ルニハ先ツ瓶ニ廿匁斗リノ水ヲ入レ其中ヘ「ハヒドロキノソ」壹匁ヲ加ヘ十分振動スルルハ溶解スヘシコレニ五十匁ノ水ヲ加ヘ其中ヘ亞硫酸曹達七匁五分トヲ加ヘ溶解シタルハ炭酸加里十五匁ヲ投シ尙

ホ水三十拾目ヲ合シテ振動スルシ

○乾板顯象法 (蓆酸鉄法)

第一

一水 百目

一蓆酸加里 三十五匁

此レチ一瓶中ニ溶解ス

第二

一水 百目

一硫酸鉄 三十五匁

此レチ一瓶ニ溶解ス

使用スルニ臨ミ第一液五匁ヲ「メートガラス」中ニ取り其中
へ第二液ノ二匁ヲ加フレバ赤色ト變ヌコレチ以テ顯象ス
若シ第二液ノ量ヲ過タルキハ濁リチ生ヌコノ濁リタル液

ハ其効ナシ

此外ニ顯象法多數アルモ初學者ハ右三法ニテ足レリ

乾板定着液 (コレハ最終ノ液)

一水 百目

一次亞硫酸曹達 四十目

右溶解シタ后用フヘシ

アリスト紙鍍金液 (色上ゲ藥)

甲

一盪化金 壹本

一水 百廿目

右瓶中ニ溶解ス

乙

一硫酸アンモニヤ 五匁

一水 五 匁

右瓶中ニ溶解ス

此甲液七匁ヲ小サキ瓶ノ中ニ入レ乙液ヲ三滴ヨリ五滴
マデ加ヘヨク々振動シテ五六時間ヲ經テ用ユ

アリスト紙定着液

一水 百 目

一次亞硫酸曹達 廿 匁

右二品溶解ス此液ハ五六度使用スモ害ナシ

以上アリスト紙ノ使用法ヲ述タルレバコレヨリ鷄卵紙(パ
ピール)使用法ヲ解ク

鷄卵紙ハパピールト云ヒ從前ヨリ寫眞師ノ專ヲ使用スル
印畫紙ニシテ寫眞用藥店ニ在リ此紙ハ其儘ニテ光線ニ感
ズルモノニ非ラズ種板ヲ以テ印畫ヲ爲サントスル前ニ銀

液ヲ塗ラザレバカラズ其銀液ヲ塗ルニハ

一結晶硝酸銀 七匁五分

一蒸留水(又ハ雨水) 五十目

コノ貳品ヲ溶解シテ其幾分ヲ平皿(パット)ニ入レ而シテ(パ
ピール)ヲ意ノ如クニ切り其滑ナル面ヲ右ノ皿ニアル銀液
ニ浸スヘシ

其手續ハ(パピール)ノ光澤面ヲ下ニ爲シ右手ナル上隅左手
ノ下隅トテ兩手ニテ弓狀ニ持テ其中中央ヲ銀液面ニ接シ次
第二兩端ヲ銀液面ニ及ボスヘシ然ルキハ其兩端ハ濕氣ノ
爲メニ卷上ル事アリ其時ハ呼吸ヲ「パピール」ノ裏面ニ施ス
キハ元ノ如ク復スヘシ而シテ其一隅ヲ針ニテ靜カニ上ケ
紙ト液面ニ空氣ノアラザルヤ否ヤヲ檢スヘシ若シ空氣ノ
存ズルキハ其所而已ハ感光藥ノ及ハザレバ印畫ノ節白点

ヲ生ズヘケレハ必ズ此空氣泡ヲ消スコト肝要ナリ此氣泡ヲ消スニハ清淨ナル木片又ハ竹片ニテ行フヘシ此手續キノ爲メ氣泡ノ消タレハ再ビ全紙面ヲ液面ニ浮スベシ此時間ハ五分ヨリ七分間マデトス刻刻ノ經過セバ其一隅ノ藥面ノ方ヨリ針ヲ刺シ其儘靜カニ引上ケ換又ハカヘ其他直立ノ物ニ針ノ尖先ヲ刺シ乾カスヘシ尤モ其全紙面ニ流動スル全液ノタル、モノナレハ其下隅ニ清淨ナル陶器ノ小皿ヲ受テ其タル、液ヲ收容スベシ此手續ハ惣シテ清淨ナルヲ要ス斯ク爲ス片ハ姑クニシテ「パピール」ハ乾キ表面ニ舞込ムベシ尙十分ニ乾カシコレヲアリスト紙ヲ使用スル如ク燒杯ニ依テ印畫ノ手續ヲ爲スヘシ燒付ノ方法ハアリスト紙ト變ル事ナレ其他色上ケヨリ定着液ヲ施ス等ハアリスト紙ト變ル事毫モナケレドモ只其色上ケ藥ノ少シク調

合ノ差アル耳

以上ノ「パピール」へ銀ヲ塗り其他乾藻ニ至ラシムルハ夜中ナレバランプノ許晝間ナレバ暗室中ノ外ハ爲スベカラズ

パピール印畫ノ色上ケ藥

調合及使用方法

(甲) 一 鹽化金

壹 本

一 水

八十目

右ノ二品ヲ溶解ス

(乙) 一 硼砂

三十目

一 水

百 目

右一瓶中ニ解カシ用フ然レドモ硼砂ハ溶解十分ニセザレバ其上澄ヲ用ヒテヨシ

甲液七匁五分

乙液二々五分

ニ合シ一時間乃至二時間ヲ經タル后使用ス決シテアリス
ト紙ト全時ニ色上ケヲナスベカラズ双方共無用物トナル
ノ恐アレハナリ
「パピール」ハ紙質アリスト紙ヨリ強クシテ少々爪ニ觸ル、
モ疵ノ生ズルコトナシ
此「パピール」印畫ノ色上ケノ濟タレハ定着液ニ浸シ十五分
間ヨリ四十分間ヲ經テ定着液ヨリ取出シアリストノ如ク
水洗ヒテ爲シ日本紙又ハ吸取紙ノ間ニハサテ大約水氣ヲ
去リ意ノ如ク斷テ未ダ濕氣ノ存ル中其裏面ニ糊ヲ布キ蓋
紙ニ貼付スベシ
其乾キタルヲ待テ光澤付器械ヲ暖メ器械ノ光澤アル面ト
寫眞畫ノ面トヲ附着セシメ靜カニ操ルヘシ

濕板コロシナンヲ以テ種板ヲ造ル事

ガラス板ヲ磨ク事

先ツ取枠ニ其寸法ノ符合スルガラス板ヲ磨臺ニ置キ動力
ザル様ニチヲ以テ固ク止メ板面ニ數滴ノアルコールヲ
タラシ木綿切ヲ以テ左右上下ト研クヘシ都テガラス板ニ
附着スル所ノ汚物ノ除去シタル片ハ更ラニ他ノ清淨ナル
木綿切ヲ以テ磨クヘシ此手續ハ表面及裏面トモ丁寧ニ行
フベシ而シテ后チガラス板面ニ在ルホコリヲ去ルニハ羽
箒ニテ淨カニ掃キ而シテ后チ呼吸ヲ吹掛ケ一面ニムラナ
キ時ハ完全ナル手續ヲ經タルモノト知ルヘシ若シムラノ
生ズル片ハ更ラニアルコールヲ注ギ前方ヲ再行スベシ然
ラザレハ寫眞畫ニ大ニ疵ノ生ズルノ患アレハ最初此手續
ヲ十分ニ爲スコト最モ肝要也

コロシナンヲ塗ル

此清淨トナリタルガラス板ヲ暗室内ニ持込ミ左手ノ頭指ト人指指ヲ以テ其ガラス板ノ一隅ヲ持チ尤モ水平ト爲シ而シテ右手ニコロシヨシノ在ル瓶ヲ持チ左手ノ小指及ヒ無名指ニテ瓶ノ栓ヲ取リコロシチンチ板面ニ注キ板面一様ニ及ボシ右方下ノ隅ヨリ余液ヲ瓶ニ戻シ手速ク左手ニテ擲フル栓ヲ元ノ如ク爲シテ瓶ハ下ニ置キ其持ツ所ノガラス板ヲ直立ト爲スキハコロシチンチノ固クナラントス此時右ノ手ノ頭指ト人指々ニテ其最終ノ垂レ口ヲガラス板ト共ニ壓スキハ流動性ヲ變シテ固着ナスコトヲ覺フベシ此時銀液ヲ貯フル所ノ立「バット」中ニ浸ス手續ヲ爲スベシ尤モ此コロシチンチハ氣發速カナル「エーテル」ヲ以テ造ラレタレハ余程手早ク爲サレハ仕損スル事多シ又常ニコロシチンチ貯ヘル所ノ瓶ハ栓ヲ十分ニ爲シ置キ氣發爲サレ

様注意スヘシ

銀液バット中ニガラス板ヲ漬クル事

銀液ハ無色ナル水ト全シ然レドモ物ニ付着シテ后光線ニ觸ルレハ赤黒色ト變ズ此銀液ヲ陶器製ノ立「バット」中ニ貯ヘ其中ヘガラス板ヲ以テ幅壹寸斗リニシテ先ノ鍍狀トナル鈎出ヲ挿入ス此鈎出ノ上部ヲバット外ニ現シ置クコロシチンチ布キタルガラス板ヲ此バット中ノ銀液ニ浸スニハ鈎出ノ上部ヲ右ノ手ノ指先キニテ持出シ鍍狀ノ曲リヘガラス板ヲ掛ケ尤モコロシチンチノ付キタル方ハ鈎出シニ接スベカラズ必スガラス板ノ背面ヲ鈎出シニ接スベシ此手續ヲ終ヘタルハ除々ト銀液中ニ沈ベシ而シテ「バット」ニハ函ノ設ケアリユレニ蓋ヲ覆ヒ三四分時ハ其儘ニ爲シ置クヘシ大約其時間ノ經タル片ハ鈎出シノ上部ヲ右手

チ以テ引出シガラス板ヲ見ルキハ白茶色ノ膜ヲ造ルベシ
 コレハコロヲチンニ銀ノ収吸シ感光力ヲ起ス原因ナリ此
 ガラス板面ヲ検スルノ必用ハ若シ銀液中ヨリ取出シ板面
 ニ線狀ヲ現スルハ未ダ銀液ノ十分収吸セザル故ナレバ一
 様ムヲナキ様見ユルマデ浸スト肝要ナリ斯ノ如キ場合ニ
 ハ再ビ浸ストチ記臆セヨ此手術ヲ經タルキハコレヲ取梓
 ニ納ムルノ手順ヲ爲スベシ前ニモ述ベシ如ク斯銀ノ収吸
 シテガラス板ニ白茶色ヲ呈セシキハ光線ニ觸レザル様尤
 モ心ヲ用フベシ併シ乾板ノ如クニアラズ漸ク一枚ノ赤ガ
 ラスタ通過スル光線ニテ差支ナシ

濕板ヲ取梓ニ入ル、

濕板ハ乾板ト違ヒ周圍一面ニ水氣ヲ帶ヒ且其藥面モ弱ニ
 シテ物ニ觸ル、時ハ疵ヲ生シ無用物トナル又取梓モ乾板

專用ノ取梓ニテ辨ヲ難キヲ以テ器械屋ハ此等ノ用ニ供ス
 ルノ取梓ヲ製セリ此取梓ハ一枚ノ中へガラス一枚ヲ入ル
 ハニ限ルベシ其一方ハ引蓋ニシテ一方ハガラス板ヲ納ム
 ルノケ所ニ設ケル蓋アリ
 ガラス板ヲ納ムルニ此一方ノ蓋ヲ開キ藥面ヲ下々向ケト
 爲シテ靜カニ納ムベシ而シテ蓋ヲ施セシ后ハ暗室外ニ持
 出スモ大丈夫光線ニフル、ノ患ナシ

「ピント」見定メ并ニ「クラミ」ノ事

「ピント」ヲ看定ムルハ前章乾板寫真法中ニ詳カナレバ敢
 テ茲ニ再記スルノ必用ナシ
 クラミハ乾板ヨリ稍大ナル者ヲ使用スルガ得策ナリ何ト
 ナレバ濕板ハ乾板ノ如キ速ニ感光スルモノナラザレハ少
 シニテモ光線ノ余計ニ來ルヲ望ムナリ然リト雖モ目鏡ノ

長ロソカラザル物ヲ以テスル時ハ朦朧トシテ鮮明ナル事
 得難シ故ニ濕板ヲ爲スニハ乾板ヨリ一層良品ヲ要シタ
 へ「クラミ」孔ノ大ナル者ヲ用フルモ鮮明ニ焦点アル者ヲ撰
 ムノ必用アリ又「クラミ」孔ノ小ナル者ヲ用フルキハ非常ニ
 晒度ヲ與へザルベカラズ昔日濕板ヲ以テ景色ヲ寫スニ六
 七十秒時甚シキハ三分間ノ長度ヲ與タル事ヲ記憶ス
 故ニ人物ヲ寫スハナルベク大ナル目鏡ヲ以テ性質ノ長キ
 モノニ限ルベシ

暗函ニ取枠ヲ納ムル事、晒度ノ事

既ニ「ピント」ノ看究メクヲヨリ決定モ濟メソハ「ピント」ガラ
 スヲ取除ケ取枠ヲ差込ムヘシ而シテ后チ目鏡ニ蓋ヲ施シ
 引蓋ヲ靜ニ拔キ目鏡ノ蓋ヲ右ノ手ニテ脱スヘシ其時間ハ
 前章ニ陳フル如ク目鏡ノ長不良ニテ大ニ差ヲ生ズルモノ

現象ノ事

ナレハ茲ニ一例ヲ舉グ十月頃青天ノ日正十二時前后尤モ
 陰浦ニテ其使用ノ目鏡ハ一寸八分ノ者ニ一番大孔ノ「クラ
 ミ」ヲ用ヒ人物全身ニテ八秒時斗リニテ感ズルヲ常トス固
 ヲリコルハ其大要ヲ記スルニ過ギズ詳カナル事ハ實地ニ
 就カザレハ得難シ右ノ割合ニテ晒度ヲ與へタレハ以前引
 拔キタル引蓋ヲ閉ヂ取枠ヲ暗室内ニ持運フベシ

寫シ終へタル取枠ヲ暗室内ニ持入り蓋ヲ開キガラス板ヲ
 取出シ最初コロソチンヲ塗リタル際持チタル一隅ヲ左手
 ノ指ニテ持チ鉄液ヲ杯ニ入レテ板面一様ニ注グキハ直ニ
 畫紋ヲ顯スヘシ然ルキハ少シク鉄液ヲ板上ニ止メ畫紋ノ
 現レ方ヲ十分促シ暫時ニシテ窓ノ方ニ透シ見ルキハ人物
 ナレハ顔其他白キ部分景色ナレハ空ノ部分ハ銀分ニ變化

チ起シ黒色ト變ズルヲ覺フベシ尤モ紙寫眞ノ種板ハ印畫ノ時黒クナル所ハ白ク透明シ白クナル所ハ黒ク種板面ニ變化チ起スモノナリ故ニ種板ハ黑白ノ判明ナルヲ勉ムヘシ此現象ニ當リ藥面若シ薄キ時ハ鉄液ヲ盃ニ少シク入レ其中へ銀液ノ三四滴ヨリ十滴マデヲ混シテ板面一様ニ注ギ又盃ニ還シ又板面ニ注ギ又盃ニ還シ何度トナク此手術ヲ行フ時ハ濃厚ナル藥面トナルヲ必セリ若シコレニテモ尙薄キハ

水十匁ニ沒食酸二匁拘椽酸壹分

ヲ合シタル液ヲ製シ置キ其液盃ニ半分斗リノ中へ銀液十テキ斗リヲ加へ以前ノ鉄液ヲ注グト全シ手續キニテ何度モ注グハ濃厚トナルヘシ此手續ノ濟タレバ板面ニ水ヲ注ギ十分藥氣ヲ退カシメ而

シテ后チ青酸加里ノ定着液中ニ投ズヘシ然ルルハ實物ノ黒キ部分ト白ク透明シガラストナル白キ部分ハ變化シタル儘ノ色ヲ存ズ其實物ノ黒キ部分ノガラス面ニテ白ク透明シタルハ定着ノ濟タルモノト知ルヘシ若シコレヲ長時間其儘青酸液中ニ置クハ一面ニ藥氣ヲ消耗シテ素ガラストナル茲ニ十分心ヲ用フベシ前章ノ法方ニヨリ定着液ヨリ出シ十分水ヲ注ギ直ニ火力ヲ以テ乾スヘシ

濕板ニ依テ造リタル種板ニ

フルニスチ布ク事

コロシチメ法ニ依テ造リタル種板ハ其藥面微弱ニシテ物ニ觸ル、時ニ直ニ其痕跡ヲ止ムモノナレバフルニスチ布キ此患ヒチ防グノ必用アリフルニスチ布クニハ先炭火ニ

テ少シノ暖氣ヲ與ヘ左ノ手ノ頭指ト人指々ヲ以テ其一隅ヲ持テ種板ヲ水平ニ爲シテ其板面ニフルニスヲ滴下シ板面一様ニ及ボスベシ其餘液ハ瓶中ニ還シ十分カラシテ直ニ火力ニテカワカスベシ乾キタレバ固着シテ物ニ觸ルモ疵ノ生スル患ナシコレヨリ前章ニ記スル手續ニ依テ印畫ノ用ニ供ス其方法ハ前章ヲ看テ知ラルベシ

ガラス寫ノ法

都テ濕板法ハ素人ニハ甚不適當ナレドモ熟練ノ効ヲ積マバ敢テ難キニ非ラズ其手續ハ濕法種板ヲ寫スニ異ナラザルト雖モ只鉄液ヲ注ギタル后畫紋ノ半現ニ依テ水ヲ注ギ鉄液ノ作用ヲ止ムルモノナリ若シ永ヲ注クテ怠リ過等ノ現像ヲ與ヘル片ハ全面ノ色則人物ノ頭髮ニ至ルモ些少白色ヲ帶ビ白黒ノ判明著シカラズ甚不愉快ノ寫眞畫ヲ造

ルベシ
 ガラス寫ハ鉄液ノ作用ヲ停止スルノ工拙ニ依テ良不良ノ畫ノ出來ルモノト心得セシ此手術逆モ兩三度試ムル片ハ知得スルニ難事ニ非ラザルベシ
 鉄液ヲ注ギ而シテ水洗ヲ爲サバ靑酸加里ノ液中ニ其藥面ヲ上向ケニ浸スベシ瞬時ニシテガラス寫眞ヲ造ルベシ其靑酸加里ヲ用意スルハ黒キ底ノ器又ハ皿類ヲ用フレバ靑酸ノ爲メニ銀分ノ退去シタルヲ一見スルニ便利ナルベシ靑酸加里ノ皿ハ中ニテ寫眞畫ヲ出來得タルトテ認メタルハ指先キニテ(尤モ藥面ニ觸レザル様注意シテ)取出シ清水ヲ注ギ十分洗ヒ火力ヲ以テ乾カスベシ既ニ乾キタレバ前章アルニスヲ布タノ手順ニ依テ黒ズルニスヲ布キ尙乾カテ函ニ貯ラベシ

ガラス寫法モ前章ニ記述スル所ニ就テ讀者ハ記臆スルナ
 ラン之レヨリ其ガラス寫ニ使用スル所ノ藥品調合法ヲ記
 スベシ
 コロシチンハ藥種屋ニ販賣爲サバ茲ニ調合法ヲ記スルノ
 必用ナシ又此調合法ハ極メテ混雜ナレバ掲クレバ却テ初
 學者ニハ利益アラザルト信ズ由シヤコレヲ自ラ調合ス
 ルモ賣品ヨリ高價ニ當レバ寫具用藥店ニテ購求スルニ限
 ルベシ
 此コロシチン (沃度) 及ヒ(臭素)ノ諸藥并ニエーテルアルコ
 ールヲ以テ造ラレタル者ニシテ其瀉發力最モ強シ昔日ハ
 英國ロンドントトマス氏或ハ「リスガン」マールソン等種々ノ
 品輸入セシモ今日乾板ノ渡來セシ以來甚僅少ニシテ孰レ
 ノ藥店ニモ販賣セルト云難シ然レドモ目今ガラス寫專用

ノコロシチンハ藥店ニテ調合販賣ス則合コロシチン之レ
 ナリ
 前章ニ述ブル如クエーテルヲ以テ造ラレタル氣發藥ナル
 ナリテ常ニ貯フルニモ瓶ノ栓ヲ密閉爲サレバ使用スル
 ニ堪ヘズ廢物ト爲スノ患アリヨク々々注意スベキナリ
 若シコロシチンニチバリノ生シテ使用ニ不便ナル時ハエ
 ーテルノ少量ヲ加ヘ希薄ト爲シテ用フベシ

ガラス寫ニ用フル銀液ノ事
 暗室中ニ貯フル「バット」銀液

- 一 蒸溜水
- 一 硝酸銀
- 百 目
- 十 匁
- チ合ス

右清淨ナル瓶ノ中ニテ溶解ス之レハ最初瓶ニ蒸溜水ヲ百
 目入レ其中ニ結晶硝酸銀ノ十匁ヲ投シ振動爲スルハ容易

ヲ溶解スルシヨレヲ漏斗ニコシ紙ヲ當テ兩三度漉シテ用
ユヘシ若シ銀ノ爲メ寫眞畫ノ明瞭セザルハ此液中ニ白
硝酸ニ滴ヲ注入スルハ其異狀ヲ回復スヘシ

濕板現像鉄液ノ事

水	百
硫酸鉄	七
酢酸	八
鉄	八

目々目々ヲ合ス

水ヲ瓶ノ中ニ入レ硫酸鉄七匁ヲ投シ動搖スルハ暫時ニ
シテ溶解スヘシコレニ酢酸七匁乃至八匁ヲ投シテ使用ス
尤モ濁ヲ生ズルハ其上澄ヲ使用スヘシ

定着「青酸加里」溶解法

一 青酸加里 十 匁

一 水 百 目

コレハ平皿中ニ水ト共ニ投ズレハ直ニ溶解スヘシ此

青酸加里ハ毒藥ナレバ取扱フニ十分注意シ扱后ハ必ず手
ヲ洗フ事ヲ忘ルズ

補方法（メツキ）

種板ハ其寫ス時所用タルツラニ或ハ製造ノ欠所時候等ノ
場合ニシテ希薄ナルハ無キ能ラズ此場合ニハ左ノ手續ヲ
以テ種板ヲ厚クスベシ
定着液ヨリ取出シ規則通ノ洗滌ヲ經テ薄キ種板ハヨク々
乾キタル后昇汞ノ強液ニ浸スルハ白色トナル然ルトキハ
清水ヲ以テヨク々アラヒ希薄アソモニヤ液ニ其白色トナ
リタル種板ヲ投スルハ以前ヨリ一層濃厚ナル種板トナ
ルニシ
昇汞液ハ天尺半ガシラ入リテ瓶ハ昇汞一チンヌヲ投テ其
基ニ清水ヲ五十目半ヲ注入シ瓶ヲ振動スルハ而シテ

其上澄ヲ用フヘシ昇求悉皆溶解スルモノニアラズ
希薄アンモニヤ液ヲ製スルニハ瓶ニ水六十目斗リテ入レ
其内へ強アンモニヤ五匁ヲ加ヘテ用フヘシ

幻燈器械ヲ以テプロマヒド 引延シ畫ヲ造ル事

小ナル器械ヲ以テ大ナル寫眞畫ヲ製スルハ到底爲シ難キ
コナルハ皆當業者ノ知得スル所ナリ然ルニ近來プロマヒ
ト引延シト云フ小ナル種板ヨリ大ナル印畫ヲ造ルコノ行
ハル此仕方ハ尤モ夜中ノ仕事ニシテ普通幻燈ヲ映寫スル
様ノ仕掛ケニ爲シテ器械ヲスヘ其映畫ヲ刺狭ム所へ寫眞
ノ種板ヲ狭ムヘシ而シテ其映畫スル所ヲ見レバ幻燈ナレ
バ諸物其儘寫ルヘシ此種板ヲ以テ寫シ見ルルハ人物ナレ
バ頭髮ハ白ク顔ハ黒ク都テ反對ニ映寫ス此時自ラ望ム所

顯象ノ事

ノ寸法ニ其位置ヲ定メヒントナ合シ最モ鮮明ニ焦点ヲ見
定メ一先ツ先玉ニ蓋ヲ施シ暗黒ト爲シ赤ガラス入りノヲ
ソブチ点シテプロマヒド紙ヲ取出シ其位置ヲ見定メタル
ケ所ニ四方數本ノ針ヲ以テプロマイド紙ヲ貼付ケテレン
スノ蓋ヲ脱スヘシ此寫シ度ハ乾板ト異ナルコトナシ然リト
雖モ其種ハぬけノ最モ宜敷シキ者ニアラザレハ良畫ヲ造
ルコト六ケ敷故ニ最モ愉快ナル種板ヲ以テ此技術ヲ行フヘ
シ寫度ノ濟タレハ目鏡ニ蓋ヲ施シプロマイド紙ヲ取ハツ
シ直ニ顯像スルカ又ハ數日ノ后ニ顯像スルカ技術者ノ勝
手タルヘシ

其畫紋ヲ顯スモソナリ先ツ顯象スルニハ其紙ノ平面ト
 マテ入ル、次ケル平皿又ハ木製ノバツト中ニフロマヒト
 紙ヲ上向ケニ入レニ水ヲ注ギ一ツ旦濕シ而シテ其水
 チ棄テ、顯象藥ヲ注クヘシ然ルモハ除キト畫紋ヲ顯スヘ
 シ其時明瞭ナル畫紋ノ顯リタルモ其液ヲ棄テ清水ヲ注
 ギ又コレヲ拾テ五六度新水ヲ取換ヘ洗フヘシ后チ水百目
 ニ醋酸十滴ヲ混シタル液ヲ注ギ二三分時置キ尙コレヲ拾
 テ左ノ液中ニ二分時間浸スヘシ
 水 百目
 次亞硫酸曹達 十五分
 此液ニ定時間浸シタルハ取出シ大皿又ハタラヒノ中ニ入
 置幾度モ新水ヲ以テ洗フヘシ然ル后廿分時間清水ニ浸シ
 テ后竹竿ニ掛テ乾スヘシ

(顯像液) 溶解法

甲 一水 百目 一瓶中ニ解ク

一 修酸加里 廿八分

乙 一水 百目 一瓶中ニ解ク

一 硫酸鉄 廿分

甲液拾分乙液三分ヲ合シテ顯像スヘシ

T-18

明治三十年一月三十日 出版
明治三十年二月五日 發行

大阪市西區立賣堀北通一丁目百五十九番屋敷

發行者 和田 亥之助

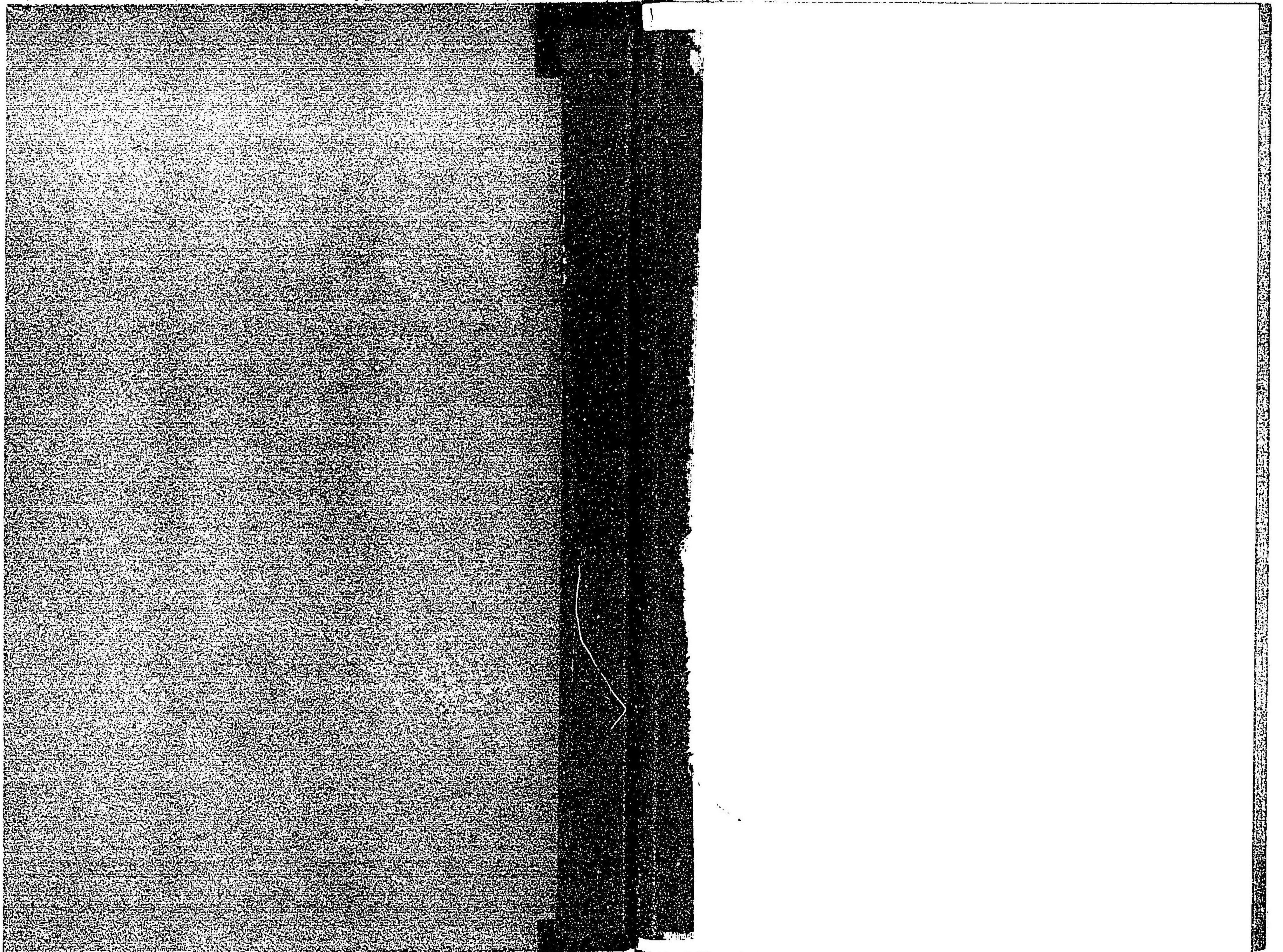
兵庫縣播摩國揖保郡大津村ノ内天満村九十番屋敷

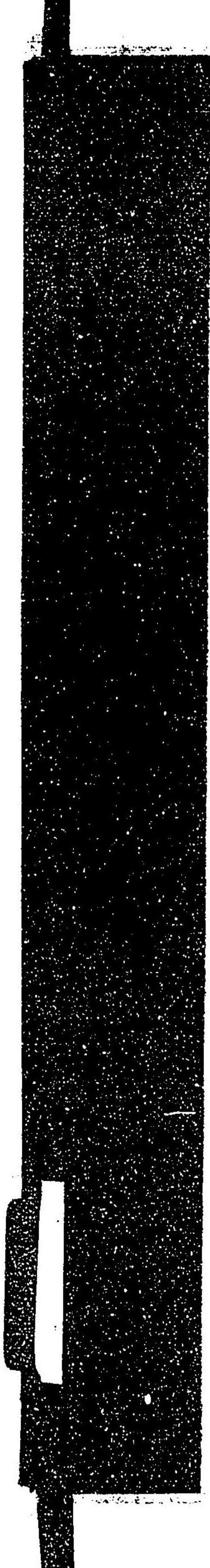
著述者 杜 川 萬 二

大阪市北區堂島中二丁目二百四番屋敷

印刷者 今井 作治 郎

通商手帳





寫真術全法說明

杜川萬二

国立国会図書館

072085-000-7

特49-535

写真術全法説明

杜川 万二 / 著

M30

CEE-0113



